

資 料 集

地域支援活動基本情報一覧

講演会資料

地域支援活動案内文

地域支援活動に対するアンケート

地域支援活動に対するアンケート結果一覧

大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート

大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート結果

平成 23 年度 地域支援活動基本情報一覧

地域	鹿児島市	伊佐市(1)	伊佐市(2)	霧島市	枕崎市
日 時	平成 23 年 5 月 28 日(土)	平成 23 年 7 月 5 日(火)	平成 23 年 10 月 25 日(火)	平成 24 年 1 月 31 日(火)	平成 24 年 2 月 21 日(火)
会 場	鹿児島大学	大口元気こころ館	伊佐市 子ども交流支援センター 笑(すまいる)	霧島市 すこやか保健センター	社会医療法人 慈生会 ウエルフェア九州病院
支援活動 内容	講演会 「発達障害とその対応」	講演会 「『子ども虐待』を知る」	模擬事例検討会 「子ども虐待」	講演会 「落ち着きがない、 トラブルが多いなどの 子どもの支援について ～保護者へのつなぎを悩む 事例をとおして～」	講演会, 事例検討会 「発達障がい児・者への 支援について ～地域での生活を支える～」
講 師	平川 忠敏 教授	土岐 篤史 准教授	土岐 篤史 准教授	服巻 豊 准教授	服巻 豊 准教授
参加人数	115 名	153 名	62 名	87 名	64 名
主 催	日曜学級運営委員会	伊佐市福祉事務所	伊佐市福祉事務所	霧島市 すこやか保健センター	社会医療法人 慈生会 ウエルフェア九州病院
共 催	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	伊佐市教育委員会 鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科
後 援	南日本新聞社	伊佐市要保護児童連絡協議会 読売新聞西部本社	伊佐市要保護児童連絡協議会 読売新聞西部本社		枕崎市・南九州市・南さつま市 鹿児島県南薩地域振興局 南薩地区障害者相談支援 事業所連絡協議会 鹿児島県医療ソーシャル ワーカー協会南薩ブロック 鹿児島県精神保健福祉士協会 鹿児島県社会福祉士会

伊佐市講演会配布資料

伊佐市子ども支援ネットワーク

「子ども虐待」を知る

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科
土岐篤史

1. 子ども虐待の現状

岸和田中学生事件

- 2004年、大阪・岸和田市で起こった、当時中学3年生の長男を実父と衰弱死寸前まで虐待した事件
- 保護された時、少年は身長155cmに対して体重24kg
- 都市部で生死に関わる虐待が年長児に対して長期間行われていた
- 学校側は児童相談所に「通告」したと話し、児童相談所は「相談」を受けて、2度保護者と話し合ったと説明した

この事件の影響

全国の児童相談所への子ども虐待の通告件数の推移

3.被虐待者の年齢別構成割合 (平成21年度)

総数 44,211 (100%)

その後

- 2004年、児童虐待防止法改正：家庭への立ち入り調査や子どもの保護に強制力をもたせる
- 2005年、児童福祉法改正、通告先に市町村が加わる
- 2008年、蘇市、桜井市の両親による幼児虐待死事件（ネグレクト）
- 2008年、厚生省発表：過去1年間での虐待死の子どもは142人、約8割は行政把握
- 2008年、児童虐待防止法改正：児童相談所の強制立ち入り調査
- 2009年、虐待通告件数（児相分）44210件
- 2010年、大阪2幼児放置死事件

子ども虐待とは

- 「虐待」という言葉のイメージ
？ 悲惨？ 事件？ 非日常的現象？
- 2000年に制定された「児童虐待の防止等に関する法律」（児童虐待防止法）？ child abuseの訳語
- abuse（アビューズ）は乱用、悪用、不当な扱いという意味
- 「子ども虐待」：子どもを利用して、親が自分の要求が満たす関係

子どもの権利

- 子ども虐待とは、子どもが心身共に安全で健やかに育つ権利が侵害されている状態
- ？ 保護者が「しつけ」と思っている、子どもにとって有害であるか、子ども自身が苦痛を感じているかという視点から、虐待と判断される場合がある

子どもの死亡原因

- 日本：男児は1～19歳まで「不慮の事故」が死因のトップ。「不慮の事故死」は先進国の1.7倍。家庭内の事故が約40%の推定
男女ともに10～19歳までに「自殺」は死因のトップ3に入る
- 先進国：1歳からの死因のトップは「保護者の虐待」。10歳以上は「自殺」が死因のトップ

※「家庭内事故」に虐待は含まれていないだろうか？

2. 子ども虐待の分類

子ども虐待の分類

- 欧米では「子どものアビューズとネグレクト」という形で包括
- 「アビューズ」：有害なことを行う。「ネグレクト」：必要なことを提供しない
- 日本の分類は
1) 身体的虐待
2) 性的虐待
3) ネグレクト
4) 心理的虐待
※「社会的虐待」：2011年障害者虐待防止法

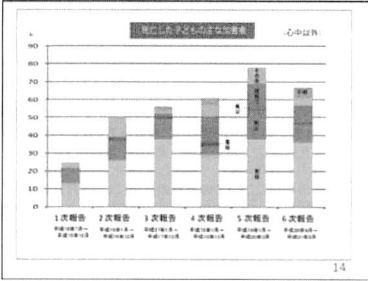
2.虐待の種類別構成割合 (平成21年度)

総数 44,211 (100%)

1) 身体的虐待

- 子どもの身体に外傷を生じようとする暴行を意図的に加えること
- 首を絞める、殴る、蹴る、投げ落とす、タバコの火を押し付ける、熱湯をかける、冬戸外に締め出すなど生命・健康に危険のある行為
- 社会が最初に注目する虐待: 見た目でわかる、生命に関わる

13



2) ネグレクト

- 子どもの心身の健康的な成長・発達にとって必要なケアを行わないこと
- 重大な病気になっても病院につれていけない、乳幼児を家に残したまま度々外出する、乳幼児を車の中に放置する、適切な食事を与えない、極端に不潔な環境の中で生活させるなど、保護の怠慢や拒否により健康状態や安全を損なう行為
- 貧困問題とは別に考える
- 「非器質性成長障害」: 脳下垂体の活動低下
- 医療的ネグレクト、歯科のネグレクト
- 二重のネグレクト(＋社会ネグレクト)

15

ネグレクトへの関心

- 2006年度の虐待死事例の分析において、ネグレクトによる死亡は39.7%
- 身体的虐待とネグレクトの報告割合は、近年、ほぼ等しくなってきた

身体的虐待

↓

ネグレクト

↓

性的虐待

↓

心理的虐待

16

3) 性的虐待

- 子どもにわいせつな行為をすること、させること
- 子どもへの性的行為の強要・教唆、性器や性交を見せる、ポルノグラフィーの被写体などに子どもを強要するなどの行為
- 性的虐待の全虐待に占める率(日本: 約3%, 欧米: 10~20%)
- 欧米では性的虐待は6歳、12歳をピークにした二峰性; 日本では幼少期の性的被害が見落とされている
- 性的虐待者のほとんどが小児愛者ではない

17

4) 心理的虐待

- 子どもに著しい心理的外傷を与える言動を行うこと
- 子どもの心を傷つけるようなこと繰り返し言う、無視する、他の兄弟とは著しく差別的な扱いをするなど心理的外傷を与える行為、DVIによる心理的外傷
- 「純粋な虐待」: 身体的虐待にせよ、性的虐待にせよ、子どもの心に深刻なダメージを与えるのは虐待の心理的側面(私は嫌われている。私はダメな人間なんだ)

18

乳児揺さぶられ症候群(SBS)

- その多くは6ヶ月以下の乳児(時には2,3歳の幼児も)
- 親などの養育者が激しく揺さぶる(壁や床に打ち付ける)ことで、脳障害に至る
- 虐待予防の重要性
- 約40%の子どもが死亡、助かっても半数は重度の脳障害
- 単純な揺さぶりでは、乳児の脳内出血は起きない

19

代理ミュンヒハウゼン症候群(MSBP)

- 子どもの虚偽の病状、あるいは、毒物や薬物などで身体症状を作り出し、病院巡りをして人々の関心を得ようとする
- 親が子どもの体調について嘘の症状を訴えたり、故意に病気にしたり、ケガを負わせたりして、不要な医学検査・治療を繰り返し受けさせる
- 親は献身的に看病する役割を演じる

20

乳幼児突然死症候群(sudden infant death syndrome; SIDS)

- 主に1歳未満の乳幼児が何の予兆や既往もなく突然死する原因不明の疾患
- 2007年には158名が死亡(1995年には579人); 1歳未満の死因の第3位
- 虐待死・外因死・窒息死などとの区別が難しい

21

3. 子ども虐待のメカニズム

22

子ども虐待の発生の3要素

- 親の要因: 親の被虐待体験、社会的孤立、誤った育児信念、自信喪失、未熟性...
- 子どもの要因: 育てにくい子ども(愛着関係が難しい、多動など問題行動)、望まれない子ども、発達障害
- 家庭生活の要因: 生活困窮、夫婦不和、育児負担、地域からの孤立

23

親の要因

- 「虐待心性評価尺度」(西澤)
- 七因子: 「体罰肯定観」「自己の欲求の優先傾向」「子育てに対する自信喪失」「子どもからの被害の認知」「子育てに対する疲労・疲弊感」「子育てへの完璧志向性」「子どもに対する嫌悪感・拒否感」

24

親の幼少期体験と虐待傾向(西澤)

- 身体被虐待?「体罰肯定感」?子どもへの身体的虐待
- 被ネグレクト?「子どもからの被害の認知」?子どもへのネグレクト
- 心理的被虐待?「自己の欲求の優先傾向」?子どもへの身体的・心理的虐待

25

体罰肯定感

- 「言っても聞かない時は叩いても教えるのが、しつけ」
- モデル学習の影響:「自分がそうしつけられた」
- 「体罰が必要」との背景は、自分がそう育てられ人生を否定したくない意識:「あの時、厳しくされたから今の自分がある」
- 親の愛情についての葛藤の解決にも、体罰肯定が関係している
- 自分の指示が無視させる不安も

26

被害の認知

- 「子どもの存在、子どもの問題に困らされている」?「自分のことを馬鹿にした目で見た」「わざと自分を困らせている」という非現実的な認識
- ネグレクトの環境?「誰も自分のことを気にかけない」「いつも自分ばかり損している」
- 「ダメな親」という自己中心的認知が、子どもとの難しさを感じたときに「悪い子」という過去のイメージを、自分の子に重ねてしまう?子どもを(自分を)矯正してやる(逆転した同一視)

27

自己欲求の優先傾向

- 自己欲求が満たされておらず、大人になっても自己の欲求への固執が起こる
- 未熟性も関係するが、「自己実現」欲求とも関係することが多い
- 依存欲求の不満も、子どもへの怒りに転じやすい。子どもとの関係を利用して、自分の欲求を満たすなどの役割逆転も

28

子どもを育てる

- 「子どもの幸せ」が中心か、「自分の幸せ」が中心か
- 幸せでない良い子育てができないわけではないが、幸せでない状況(否定的自己認知、自己欲求の不満足)は、虐待のリスクといえる

29

配偶者間暴力(DV)

- 2009年の配偶者からの暴力事件20158件(2001年DV防止法前の約8倍)
- DV:多くは夫(男性)が性的に親密なパートナーを、精神的な支配状態に置くことを目的にして、あらゆる暴力を使用して社会的に孤立させる状態
- DVは暴力によって維持される支配関係
- 「夫の怒りによる緊張上昇」?「夫の怒りの爆発による暴力」?「怒りの低減後の妻へのいたわり」

30

暴力による支配の種類

- 身体的支配:活動全般や立ち振る舞い、衣装に至るまで、指示通りに動くことを求める
- 認知的支配:被害者の考え方や価値観を全否定して、加害者が自分の考えを押し付ける
- 情緒的支配:怒りや悲しみなどの被害者の感情を否定して、そうした感情をもつべきではないと主張する
- 社会的支配:被害者の社会的活動を制限したり管理したりする
- 経済的支配:経済的管理を被害者にさせない?被害者の「無力化」と加害者の「理想化」

31

加害男性の心理

- 過去に自分の人生を自分でコントロールできなかった、あるいは、自分の理想とギャップを抱えているケースが多い
- 不遇な過去(迫害体験)、高機能自閉症などの発達障害、自力本願(過剰適応)...
- 強い無力感を補うため、親密な他者にのみ絶対的あり方をしないと気がすまない

32

DVと子ども虐待

- DVと子ども虐待が同時に起こる確率:約50%
- しかし、DVが解決した後に、母子虐待が始まる場合もすくなくない(ネグレクト、心理的虐待)
- DVと性的虐待:他者への支配欲求に基づいた行為

33

性的虐待の影響

- 幼少期は性的被害があっても、性的意味の理解が難しい?身体的苦痛:身体的虐待。思春期以降のトラウマ体験
- 被害の影響は性器いじり、性化行動、性的な遊び
- 思春期以降は、性的意味が理解できるので、性的被害の様相が明確になる
- 被害の影響は、精神症状、行動異常

34

4. 子ども虐待と発達障害

35

子ども虐待に認められた併存症(杉山)

併存症	合計	%
自閉症スペクトラム障害	300	29.0
注意欠陥多動性障害	162	15.6
その他の発達障害	91	8.8
反応性愛着障害	438	42.3
解離性障害	512	49.4
PTSD	339	32.7
反抗挑戦性障害	202	19.5
行為障害(非行)	279	26.9

発達障害

虐待の後遺症群

非行群

36

発達障害と子ども虐待(杉山)

- 発達障害は子ども虐待を受けやすい(全体の53%)
 - 特に知的な遅れのない自閉症スペクトラム障害
 - 自閉症スペクトラム障害の場合、母子共に該当する例も少なくない
 - 子ども虐待の結果生じる愛着障害には、発達障害に非常に類似した症状が認められる
 - 特に注意欠陥多動性障害と虐待系の多動は鑑別が難しく、両方が掛け算になっている例も多い
- 子ども虐待そのものが、広範なそだちの障害を呈し、発達障害と言わざるをえない臨床像を呈する

37

子ども虐待の影響

- 愛着障害:愛着とは、乳幼児が不安に駆られたときに養育者によって不安をなだめる行動、対人関係の基礎。自律的情動コントロールの基盤。トラウマからの回復?困難に
- トラウマ性障害:解離とフラッシュバック:辛い経験を切り離す。記憶の断片がフラッシュバック。経験による学習が難しい
- 反社会的行動:反抗挑戦性障害、行為障害(非行)?いずれも、専門的治療が必要になる

38

ご清聴ありがとうございました!

Thank You

39

45

霧島市講演会配布資料

2012.1.31
すこやか保健センター

霧島市保育士・保健師研修会
早期発見における理解と支援

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

服巻 豊

発達障害児・者

- ・自閉症
- ・知的障害
- ・注意欠陥多動性障害
- ・学習障害

— —

行動に注目される

支援は早期から実施した方が、
その後の適応が促進され、
生活が安定する

↓

だから早期発見の
必要性がある

3

保健師

健診

フォロー・連携

引きこもり

0歳

1歳

3歳

4歳

6歳

12歳

15歳

18歳

産婦人科・小児科

小児科

保育士

小学校教員

中学校教員

高校教員

4

保育士・保健師

0歳

1歳

3歳

4歳

6歳

12歳

15歳

18歳

健診

フォロー連携

引きこもり

保護者

受診・療育

拒否

気がなるが...

10. 12歳

脳の発達、
感覚の問題

受診・療育

保健師

1歳半

3歳

保護者

拒否

未指摘

10, 12歳

脳の発達

感覚の問題↑

再相談

怒り

受診・療育

受診・療育

・親として後悔

・指摘されなかった怒り

・子どもを追いつめない

・この10年無駄

・子どもを追い

つめる(法?)

6

保健師さんたちの武器

1. 保健相談
(健診相談、歯科相談、予防接種、ポリオ接種など)
2. 親子教室・子育て支援教室
3. 訪問相談(地域別の個別訪問)
4. 他職種、他機関との連携

7

保育士さんたちの武器

1. 就園時から子どもたちの成長
(遊び、集団遊び、ことば、対人関係などの社会性)
2. 母子ともに成長する姿
3. 悩みの聞き役(お母さんの困りごと)
4. 地域、他職種、他機関との連携
5. 子どもたち、親たちとともに成長

保健師さん・保育士さんの武器

養育者にとって・・・

- ◎子どもの発達を身近でみてくれる存在
- ◎子どもと親の成長プロセスをいろんな側面から見守ってくれる存在
- ◎子どもの成長をともに喜んでくれる存在
- ◎子どものことでちょっとした家族にも言えないことを話せる存在
- ◎家族以外で親身になってくれる存在

9

新米ママの心理

健康があたり前

普通じゃないなんて受け入れられない
普通じゃないなんて受け入れたくない

↓ 現実を見る？

親としての責任 ⇨ 成長

10

新米ママ、子どもを見た
支援者の心理
気になる子ども
言えない、言っても受け入れてもらえない
伝えて説得しなければ！今から療育を！
現実を伝える作業
見捨てず
見守る
保健師の責任

発達障害児の親としての責任

発達障害児を育てる

子どもの発達環境(教育、生活能力)
を整える

子どもの権利(適切な教育機会、余暇
活動、地域生活など)を守る

親自身も育つ！ **行政・地域
を育てる**

伊佐市子ども支援ネットワーク

「子ども虐待を知る」

虐待は他人事ではなく、私たちの身近に起こる問題です。虐待は「行き過ぎた体罰」のような狭い意味ではありません。子どもが耐え難い苦痛を感じる時、保護者も苦しんでおり、理解と支援が必要です。子ども達に関わるプロとして、子ども虐待を学び、みんなで子ども達の育ちを守っていきましょう。

日 時：平成23年7月5日（火） 19:00～21:00

会 場：大口元気こころ館 鹿児島県伊佐市大口里3054-1

講 師：土岐 篤史 先生（鹿児島大学大学院臨床心理学科研究科准教授）

対象者：保育士・幼稚園教諭・学校教諭・保健師・臨床心理士・SSW・等

定 員：150名

受講料：無 料

主 催：伊佐市福祉事務所

共 催：伊佐市教育委員会、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援：伊佐市要保護児童連絡協議会、読売新聞西部本社

申込先：伊佐市福祉事務所子育て支援係

申込方法：別紙様式にて、メールもしくはFAXでお申込み下さい。）

申込期限：平成23年7月1日（金）

— 講師紹介 —

土岐 篤史（とき あつし）児童精神科医・臨床心理士

専門分野：児童精神医学、家族精神医学、医療心理学

研究内容：発達障害・情緒障害・精神障害を有する子どもの治療および発達支援、地域における早期発達支援システムの構築への支援活動、慢性疾患や障害を抱えた子どもと家族への心理社会的支援の実践と研究に従事している。

伊佐市子ども支援ネットワーク

「子ども虐待」模擬事例検討会

7月に子ども虐待についての基本的な講演を行いました。
今回は、その知見をベースとして模擬事例検討会の学習を行います。
架空事例の対応会議を見ながら、参加者は虐待のチェックリストや相談表を用いて支援的理解を深めてください。

日 時：平成23年10月25日（火） 19:00～21:00

会 場：伊佐市 子ども交流支援センター 笑（すまいる）

鹿児島県伊佐市大口上町46-1

講 師：土岐 篤史 先生（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 准教授）

対象者：要保護児童対策協議会メンバー・保育士・保健師・臨床心理士・
教育関係者等

定 員：50名程度

受講料：無 料

主 催：伊佐市福祉事務所

共 催：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援：伊佐市要保護児童連絡協議会、読売新聞西部本社

申込先：伊佐市福祉事務所子育て支援係

申込方法：別紙様式にて、メールもしくはFAXでお申込み下さい。

申込期限：平成23年10月21日（金）

— 講師紹介 —

土岐 篤史（とき あつし）児童精神科医・臨床心理士

専門分野：児童精神医学、家族精神医学、医療心理学

研究内容：発達障害・情緒障害・精神障害を有する子どもの治療および発達支援、
地域における早期発達支援システムの構築への支援活動、慢性疾患や障害を抱えた
子どもと家族への心理社会的支援の実践と研究に従事している。

霧島市講演会案内文

平成23年12月28日

各霧島市立保育園園長 様

健康増進課長

霧島市保育士・保健師研修会の実施について

日頃より、母子保健事業について、ご理解とご協力をいただき感謝いたします。

さて、平成16年に発達障害者支援法が制定され、発達障害の早期発見及び早期支援が地方公共団体の責務であると明記されております。これまでも、保育園と保健センターでは、随時連携を図りながら、発達障がい児（疑いを含む）への支援を行っております。

今回、早期発見・早期支援のための技術向上及び連携の確認を目的に、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科のご協力をいただき、下記のとおり研修会を計画いたしました。

貴重な機会ですので、ぜひ参加いただきますようお願いいたします。

なお、参加申し込みについては、別紙様式にて、保健センターまでFAXでご連絡ください。困っている事例がありましたらご記入ください。

記

1. 日時 平成24年1月31日（火）19時～21時
2. 場所 霧島市すこやか保健センター
3. 対象 公立保育園保育士、霧島市保健師
4. 内容 講演及び事例検討
演題「落ち着きがない、トラブルが多いなどの子どもの支援について」
～保護者へのつながりを悩む事例をとおして～
講師：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科
准教授 服巻 豊 先生（臨床心理士）
5. 情報交換

平成 24 年 1 月 23 日

発達障がい児・者への支援に関する研修会実施について

ウエルフェア九州病院では、地域との各機関と随時連携を図りながら、心の悩みを持つ方や心の病気の方への支援を行っております。心の悩みを持って来院される方の中には発達障がいを抱える方やその保護者もおられます。発達障害者支援法（平成 16 年）の制定以降、発達障がいを抱える方に対して乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する一貫した支援がますます求められています。

今回、専門職として発達障がいを抱える子どもへの支援のあり方について考える機会として、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科（地域支援プロジェクト事業）にご協力いただき、下記のとおり研修会を計画いたしました。発達障がいを抱える方やその保護者への支援に関わられている対人援助業務を携わってらっしゃる皆様の専門性を高め、かつそれぞれの専門業務における役割分担や連携のあり方についてディスカッションができるように工夫した研修会として企画しております。発達障がいの方々への支援をされている、あるいは関心がある方々は、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

記

1. 日時 平成 24 年 2 月 21 日（火） 15：30～17：30
2. 場所 ウエルフェア九州病院 会議室
3. 対象 対人援助職の方
4. 内容 講演及び事例検討
演題「発達障がい児・者への支援について～地域での生活を支える～」
講師：服巻 豊 先生（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科准教授）
5. 受講料 無料
6. 交流会 18：30～
※参加された方々と講師、地域支援プロジェクト支援スタッフならびに研修会企画スタッフを交えた交流会を開催します。専門職同士のつながりに通じればと思います。枕崎市内で会費 3,000 円程度を予定しています。ふるってご参加ください。
7. 申込先 ウエルフェア九州病院臨床心理室（別紙様式）
8. 申込方法 FAX もしくはメール
9. 期限 平成 24 年 2 月 14 日（火）まで

—講師紹介— 服巻 豊（はらまき ゆたか）臨床心理士

実践活動：個別相談、母子保健事業、生活支援センターとの連携による集団療育など
幼児から成人、その保護者に対して発達障害児・者支援の実践を行っている。

伊佐市講演会アンケート

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- ☐ 性別 男性 女性
- ☐ 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ☐ ご職業 保健師 その他（ ）
- ☐ 現在ののご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 （ ）年
- ☐ どのようなきっかけで今回の講演会に参加しようと思われましたか。

1. 今のあなたの気分についてお答えください。

1-1. 活気がある

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-2. 緊張している

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-3. のどこかである

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-4. そわそわしている

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-5. やる気に満ちている

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-6. 不安がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-7. 充実している

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-8. 動揺している

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

1-9. 平静である

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

2-1. 虐待の4分類を知っている

2-2. 乳児ゆさぶり症候群を知っている

2-3. 代理ミュンヒハウゼン症候群を知っている

2-4. 虐待する親の要因を知っているか

2-5. DV について知っているか

2-6. 子ども虐待と発達障害の関係について知っているか

3. 実際に、虐待の問題に遭遇したことがある はい ・ いいえ

4. 実際に、虐待の問題に遭遇した場合、専門職として対応する自信がある

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

5. 4. の回答について、そのように思う理由を、ご記入ください。

6. 虐待についての専門的な知識やスキルを、より身につけたいと思う

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

7. 6. について具体的にあればご記入ください

53

これから先は、講演会後にご記入ください。

8. 今のあなたの気分についてお答えください。

8-1. 活気がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-2. 緊張している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-3. のどかである

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-4. そわそわしている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-5. やる気に満ちている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-6. 不安がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-7. 充実している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-8. 動揺している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8-9. 平静である

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

9. 今回のテーマ「虐待」についてお答えください。

9-1. 虐待の4分類を知っている

よく理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

9-2. 乳児ゆさぶり症候群を知っている

よく理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

9-3. 代理ミュンヒハウゼン症候群を知っている

よく理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

9-4. 虐待する親の要因を知っているか

よく理解できた ある程度理解できた 理解できなかった

9-5. DV について知っているか

よく理解できた

ある程度理解できた

理解できなかった

9-6. 子ども虐待と発達障害の関係について知っているか

よく理解できた

ある程度理解できた

理解できなかった

10. 実際に、虐待の問題に遭遇した場合、専門職として対応する自信がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

11. 10. の回答について、そのように思う理由を、ご記入ください

[]

12. 今後、虐待についての専門的な知識やスキルを、より身につけたいと思う

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

13. 12. について具体的にあれば、ご記入ください

[]

14. 今回の講演会はいかがでしたか（感想・要望など自由にご記入ください）

大変満足

まあ満足

どちらでもない

あまり満足していない

満足していない

[]

以上になります。ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。

霧島市研修会アンケート

どうぞよろしくお願いいたします。

- ☐ 性別 男性 女性
- ☐ 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ☐ ご職業 保健師 保育士 その他（ ）
- ☐ 現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 （ ）年
- ☐ どのようなきっかけで今回の講演会に参加しようと思われましたか。

これから先は、研修会後にご記入ください。

6. 実際に、発達障がい児の事例に遭遇した場合、専門職として対応する自信をもてましたか？

とてももてた 少しもてた どちらでもない あまりもてなかった 全くもてなかった

7. 実際に、他機関・他職種との連携に必要な、他の専門職についての知識をもてましたか？

とてももてた 少しもてた どちらでもない あまりもてなかった 全くもてなかった

8. 発達障がい児・者への対応についての専門的な知識やスキルを、より身につけたいと思う

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

9. 地域として、発達障がい児・者への対応に関して、他機関・他職種と連携をとっていききたいと思う

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

10. 他機関・他職種と連携をとっていくために必要だと思うことがありましたら、自由にご記入ください。

[

]

11. 今回の研修会はいかがでしたか（感想・要望など自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[

]

以上になります。ご協力ありがとうございました。
ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください

枕崎市講演会アンケート

平成24年2月21日

発達障がい児・者への支援に関する研修会アンケート

今日は研修会へのご参加、誠にありがとうございました。

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科では、「地域支援プロジェクト」と称し、専門職大学院としての地域支援活動の実践と、地域において即戦力となる臨床心理士養成のための教育プログラムの開発を行っております。

今後の地域支援活動をさらによいものにしていくために、アンケートにご協力いただけたら幸いです。1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、どうぞよろしく願いいたします。

- [illegible]

$$[\quad]$$

- 1. 実際に、発達障がい事例に遭遇した場合、専門職として対応する自信がある**

とてもある 少しある どちらでもない あまりない 全くない

2. 発達障がい児・者への対応についての専門的な知識やスキルを、より身につけたいと思う

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

3. 発達障がい事例に遭遇した場合の、他機関・他職種との連携に必要な知識をもっている

たくさんもっている 少しもっている どちらでもない あまりもっていない 全くもっていない

4. 地域として、発達障がい児・者への対応に関して、他機関・他職種と連携をとっていききたいと思う

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

5. 4の回答に関して、そのように思う理由をご記入ください。

研修会前のご記入はここまでになります。

これから先は、研修会後にご記入ください。

6. 実際に、発達障がい事例に遭遇した場合、専門職として対応する自信を得られましたか？

とてももてた　少しもてた　どちらでもない　あまりもてなかった　全くもてなかった

7. 発達障がい児・者への対応についての専門的な知識やスキルを得られましたか？

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

8. 発達障がい事例に遭遇した場合の、他機関・他職種との連携に必要な知識を得られましたか？

とてももてた　少しもてた　どちらでもない　あまりもてなかった　全くもてなかった

9. 地域として、発達障がい児・者への対応に関して、他機関・他職種と連携をとっていききたいと思う

とてもそう思う　少しそう思う　どちらでもない　あまりそう思わない　全くそう思わない

10. 他機関・他職種と連携をとっていくために必要だと思うことがありましたら、自由にご記入ください。

11. 今回の研修会はいかがでしたか（感想・要望など自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

12. 日々お仕事をされている中で、臨床心理士や専門職大学院への要望がありましたら、自由にご記入ください。

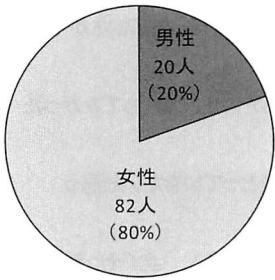
ご協力ありがとうございました。

ご記入が完了しましたら、回収ボックスにお入れください。

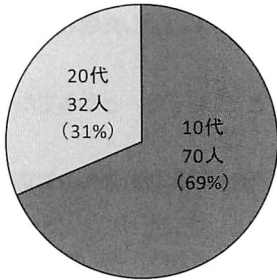
アンケート結果一覧

【鹿児島市における支援活動について】

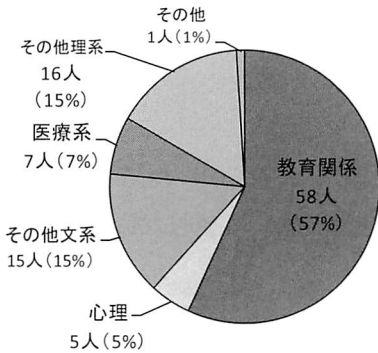
参加者の性別



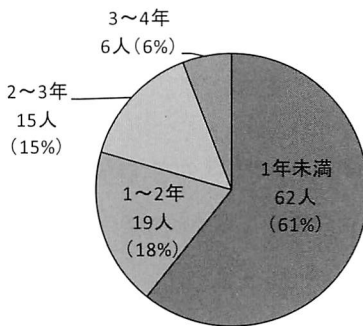
参加者の年代



参加者の専攻



ボランティア経験年数



○ボランティアを始めたきっかけ

勧誘・紹介
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに参加していた友人のすすめで始めた。 ・先輩や友達からの話をきいて。
興味・関心
<ul style="list-style-type: none"> ・障害について興味があったから。 ・発達障害の子どもさんと関わってみたいと思ったから。
将来の仕事や活動に活かすため
<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことを将来に活かしたかったから。 ・教員を目指しているので、子どもたちと接する機会がほしいと思ったから。

実際に障害児・者との関わりがある（あった）
<ul style="list-style-type: none"> ・弟に知的障害があつて、日曜学級にお世話になったとき、自分も何か役に立ちたいと思ったから。 ・小学校のとき、障害をもった子に元気と勇気をもらったから。
社会貢献のため
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のためにもなり、人の役に立てることをしたいと思ったから。 ・障害の方をもっと理解し、少しでも社会に貢献できるようにと思った。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長のため。 ・子どもが好きだった。

○活動の中で困っていること

関わり・支援の方法がわからない
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがパニックになったときの対処法がわからないときがある。 ・私の対応の仕方でいいのかな、など不安になる。
自分の時間との調整
<ul style="list-style-type: none"> ・勉強との両立・私的時間の減少 ・就職活動。あまり周りから理解されていない。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力がないこと。 ・学内の場所がとれないなど、場所確保できないことがある。

○支援のニーズ

障害や具体的な支援方法の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・実践についてのアドバイス（関わり方、パニック、癇癢の対応など） ・もっともっと障害児について知ることができる機会があればよいと思う。
一般の人への「障害理解」に対する啓発活動
<ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者のことを理解していない方たちへの説明。 ・こんな障害があるということをもっと多くの人に広めること。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと色々な場所でのボランティアを提供してほしい。 ・もう少し勉強会や親の方、兄弟の方からの講話があつたらいいと思う。

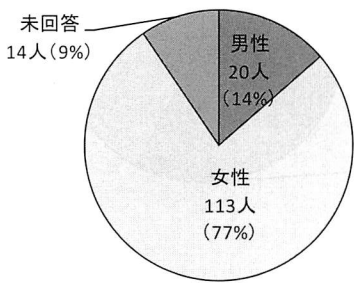
○講演会の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・いろいろなことが知れて、参加してよかった。・非常に自分のためになった。今後のボランティア活動に活かしていきたいと思った。
日曜学級の活動や障害への理解の促進
<ul style="list-style-type: none">・自閉症のことや障害のことが少しわかった。・周りの人が変わることが大切だと知った。・日曜学級の歴史や地域にどう貢献しているか理解できた。
日曜学級に対する興味・関心の増大
<ul style="list-style-type: none">・いろんなことを知れたし、これからすごく楽しみになった。色んな方々との出会いやつながりを大事にしたい。・今回の講話を聞いて、ボランティアについて、前よりもさらに関心をもつことができた。・OBの方の話などきいて、私も誰かの力になれるように自らボランティアに参加していきたいなと思った。

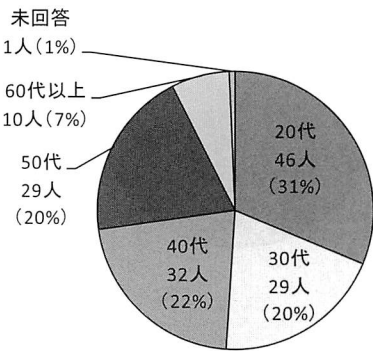
【伊佐市における支援活動（１）講演会について】

（アンケート回収率：96％）

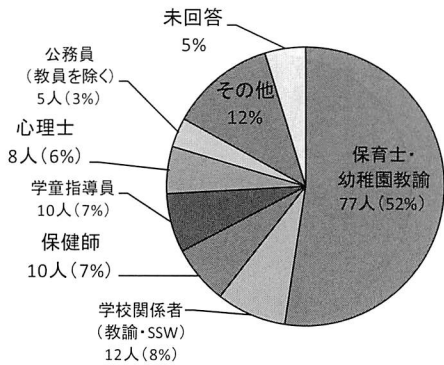
参加者の性別



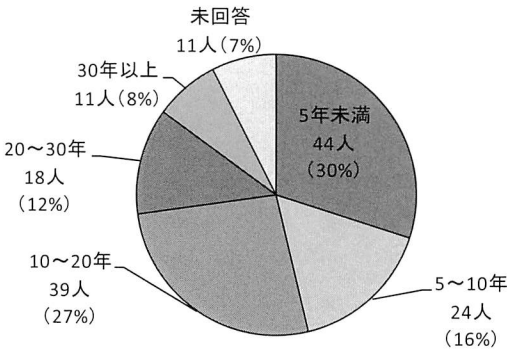
参加者の年代



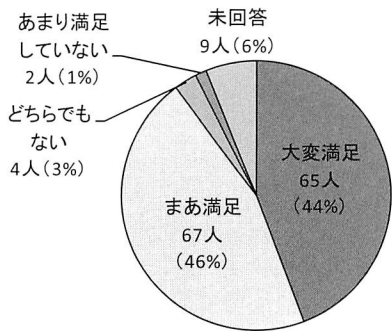
参加者の職種



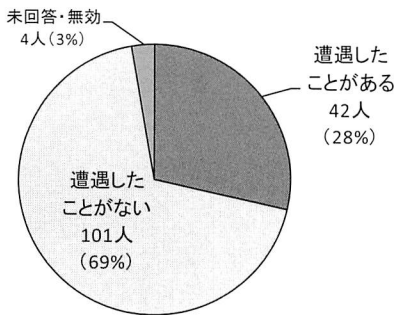
参加者の職歴



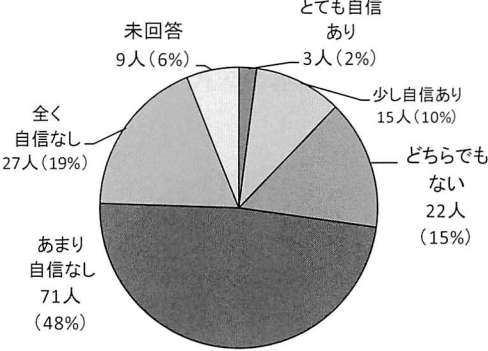
講演会の満足度



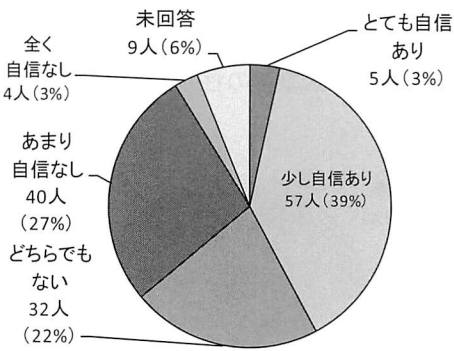
虐待問題への遭遇の有無



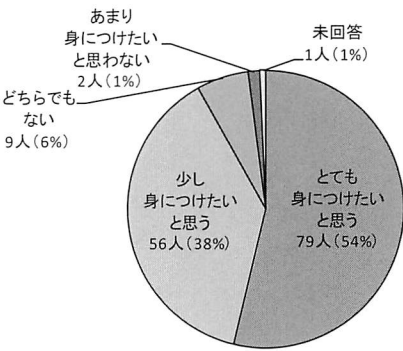
専門職として対応する自信の程度
(講義前)



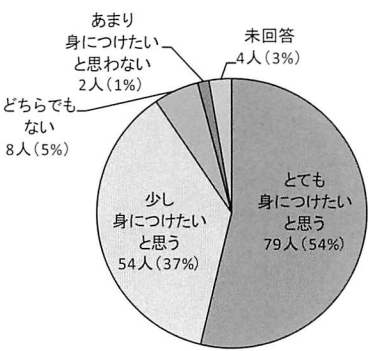
専門職として対応する自信の程度
(講義後)



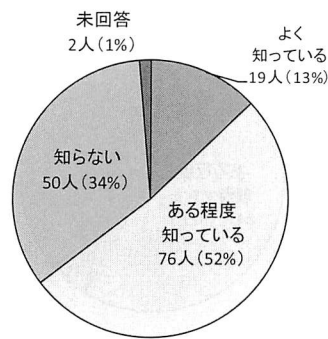
専門的知識習得に対するモチベーション
(講義前)



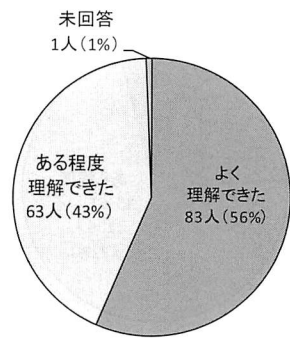
専門的知識習得に対するモチベーション
(講義後)



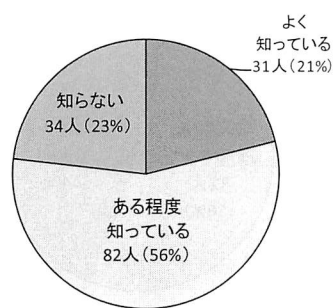
知識の程度：虐待の4分類



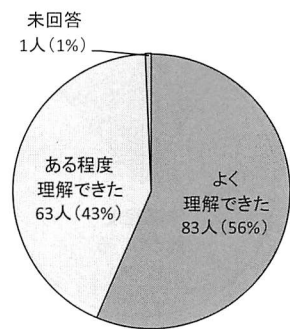
理解の程度：虐待の4分類



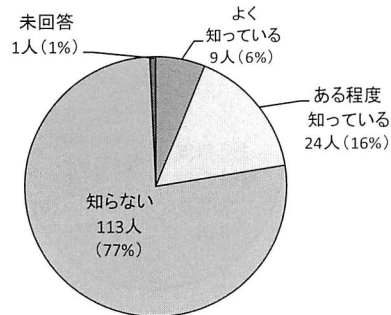
知識の程度：揺さぶられ症候群



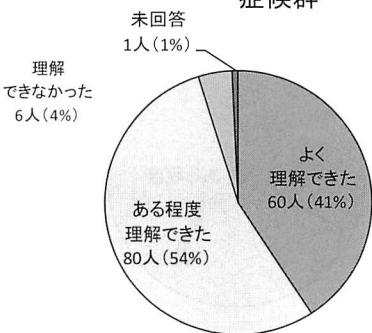
理解の程度：揺さぶられ症候群



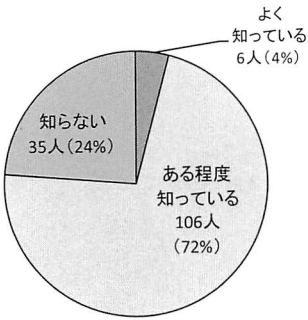
知識の程度：代理ミュンヒハウゼン症候群



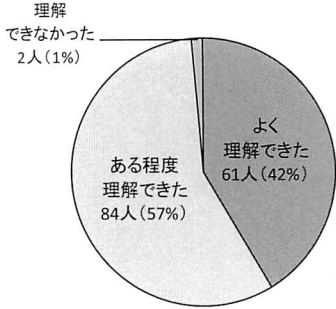
理解の程度：代理ミュンヒハウゼン症候群



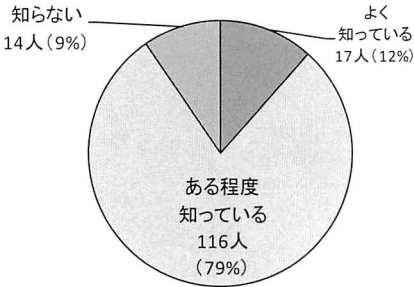
知識の程度:親の要因



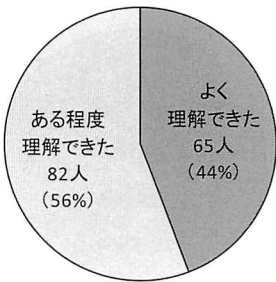
理解の程度:親の要因



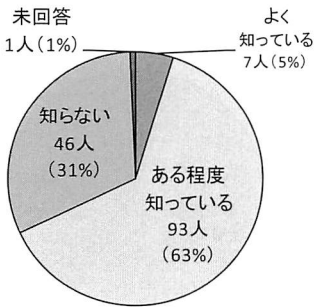
知識の程度:DV



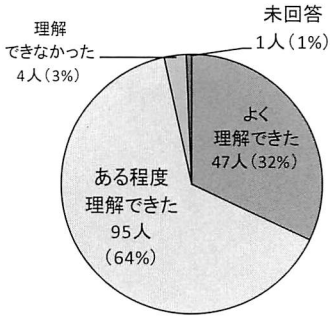
理解の程度:DV



知識の程度:発達障害との関係



理解の程度:発達障害との関係



○気分に関する項目の平均の比較

	人数	講義前		講義後		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
活気	144	3.38	.92	3.41	.85	.44
緊張	146	2.79	.93	2.48	.89	3.65***
のどか	145	3.22	.89	3.12	.87	1.27
そわそわ	147	2.59	1.00	2.44	.81	1.62
やる気	145	3.41	.88	3.46	.85	.73
不安	147	2.95	1.12	2.83	.99	1.36
充実	147	3.49	.94	3.44	.88	.62
動揺	147	2.29	.89	2.49	.96	2.28*
平静	146	3.53	.83	3.45	.89	1.01

(***= $p<.001$, *= $p<.05$)

○参加の動機

案内
・ 職場に案内があり，知っておきたいことだと思ったから。 ・ 保育園の研修案内をうけて。
自己学習・研修のため
・ 「子ども虐待について」日頃，接している子ども達のまわりの様子などから，私達が気づいてあげられるところがあれば…と思い。 ・ 現状というのを知りたいと思ったことと，子ども達に関わる者として，今後に生かしたいと思った。
興味・関心
・ 虐待について興味があり，講演を聞いてみたいと思ったから。 ・ 今，虐待による子どもに関する事件が多いので，興味を持った。
その他
・ 学校現場において大切なこと。なかなか機会がない。 ・ 市は「日本一子育てにやさしいまちを目指して」を宣誓しているため，参加した。

○「虐待」に関して身につけたい専門的知識やスキルの具体的内容

【講義前】

具体的な対応・支援の方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待もたくさんの種類があるので、全ての虐待の内容や違いを理解して、いざ目の当たりにした時の子どもへの対応や親への対応の仕方をきちんと理解しておきたい。 ・対応。心のケア。今後どのようにしていけばよいか等。
虐待に関する基本的事項（要因・特徴など）
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待する親の心理的・環境的背景について。 ・虐待の特徴を知りたい。
その他の知識
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり身近に感じていないので、急いで身につけたいと思わないが、発達障害と関係があるのなら、正しい知識を身につけたい。 ・まずは現状を知る。現場での役割を知る。

【講義後】

具体的な対応・支援の方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・身体的虐待，ネグレクトなど，それぞれに対して，具体的にどのような介入方法があるのか，対応する際に心得ておく必要のあることは何か。 ・虐待に気付いた場合の解決に向けた進め方。
事例検討会
<ul style="list-style-type: none"> ・とても複雑で難しい問題だと思うので，ケースを通してどう対処されたかなど詳しく学んでみたい。 ・シリーズ化して定期的に行ってほしい。難しいと思いますが，事例を通して…。
その他の知識
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待のメカニズムをもう少し勉強したい。 ・発達障害，心理学

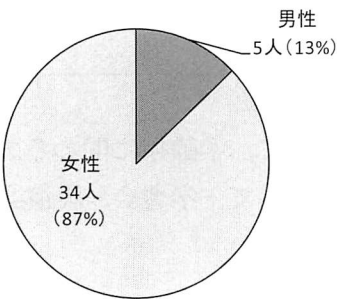
○講演会の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・なかなか虐待についての話を聞く機会がないので、今回とても学べるいい機会になった。・奥深い虐待の背景やメカニズムについてわかりやすく話していただき、ほとんど知識のない私にもある程度理解でき、さらに勉強しようという意欲（動機づけ）を与えてくださった。
講演内容に対する具体的要望
<ul style="list-style-type: none">・具体的なお話をもっと聞きたい。発達障害等について、学齢期に関わる方（特に学校の先生）にもっと学んでもらいたいので、対象にして、学習会，講演会を開いてほしい。・色々な事例からの対応のしかたなども聞きたかった。
支援のあり方に対する気づきや理解の深まり
<ul style="list-style-type: none">・気にしておいてたほうがいいポイントを教えていただいたので保育園で仕事をするうえで気をつけてみていきたいと思います。・具体的な話を聞き、ある程度の理解ができた。今後に活かしていきたい。
その他
<ul style="list-style-type: none">・調理員として仕事をしているが、このような講演を聞く機会は初めてだった。勉強させてもらった。・やっぱり虐待の問題は心にひっかかるものがある。

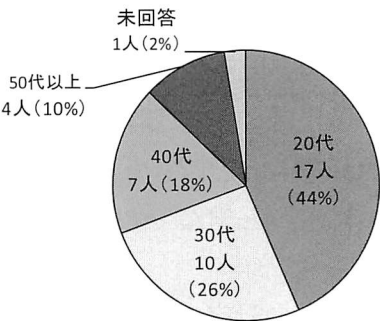
【伊佐市における支援活動（２）模擬事例検討会について】

（アンケート回収率：63％）

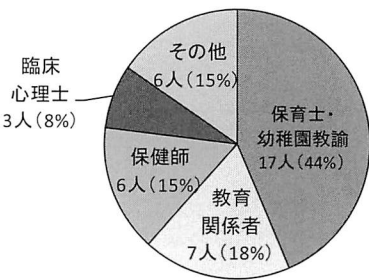
参加者の性別



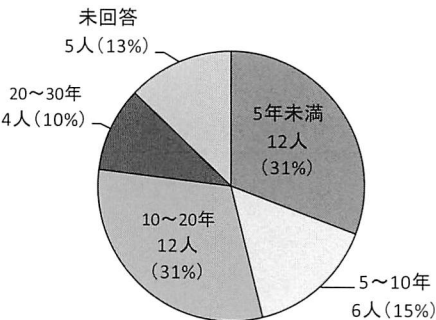
参加者の年代



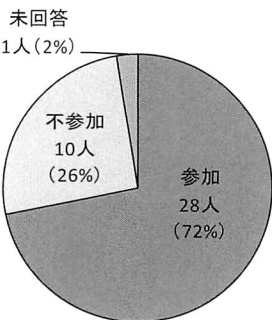
参加者の職業



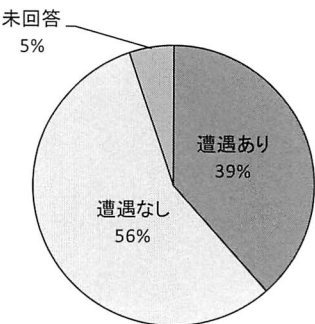
職歴

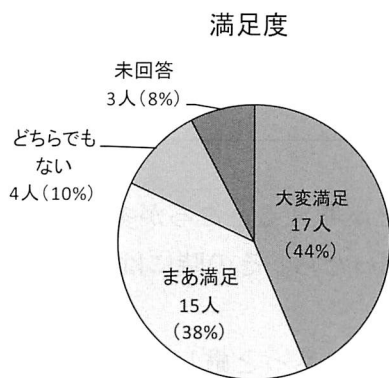


7月の講演会の参加の有無



虐待問題への遭遇の有無





○参加の動機

自己学習・研修のため
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な研修に参加し、勉強をしながら子育て支援に役立てたいと思ったので。 ・ 虐待発生時の対応の在り方、実際の流れについて、学びたい、知りたいと思った。
興味・関心
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めての中身で興味もあった。今後の自分の仕事に役立つと感じた。 ・ 子どもを守りたい。興味があるから。自分にできることは何かと考えて。
案内
伊佐市における支援活動（1）への参加を受けて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の講義に参加したため。 ・ 7月の講演を聞いて、今回も受けたいと思ったから。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まであまり参加したことがなかったため。 ・ 他職種との交流

○模擬事例検討会の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事例を取り上げ、大変参考になった。 ・ 現場の様々な先生方のお話をきけて、とても勉強になった。
虐待事例やその対応に対する理解の深まり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて虐待の事例をきき、行政機関の限界を感じつつ、そこでいかに工夫してできることを広げていくか、機関同士のネットワーク作りや検討会の重要性などを感じた。 ・ 模擬の様子を見て、検討会に関わる部門（福祉事務所、児相など）がよくわかった。

研修内容の難しさ
<ul style="list-style-type: none"> ・事例が難しかった。もっと経験してからこの検討会に参加したいと思った。 ・中身が難しく、自分の勉強不足を感じた。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・もし自分が事例対応をした保健師だったらと思うと、考えるところが多くあった。今後もしっかり学習を重ね、「もし実際の立場に立ったら」その時には対応していけるようにしていきたいと思った。 ・実際の検討会の様子も今日のような様子と思う。現実はまだ厳しいと思う。社会や行政、警察などを信頼して育児をしていけば良いなあと感じた。

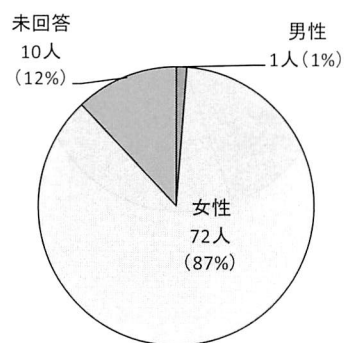
○臨床心理士に対するニーズ

子ども・保護者への対応の具体的方法
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子に対する対応、その親に対する対応 ・保護者（特にグレーゾーンといわれる）に対してのメンタルケア。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村職員として当たり前心理士さんが配置されることを期待する。 ・スタッフに対してのメンタルケア・・・働く場としては色々な問題がある。

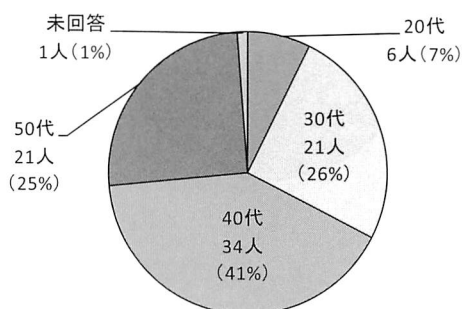
【霧島市における支援活動について】

(アンケート回収率：95%)

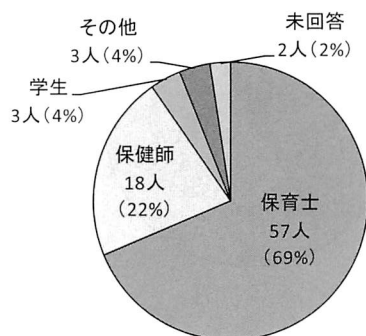
参加者の性別



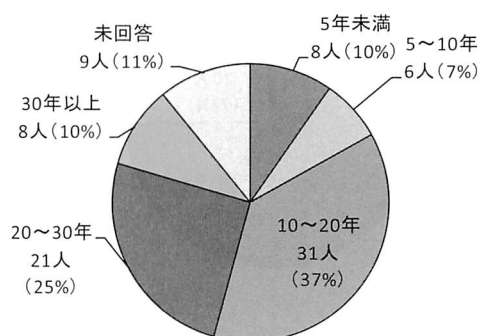
参加者の年代



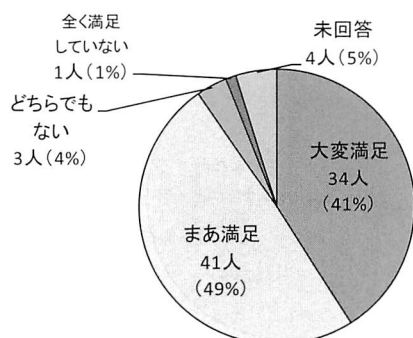
参加者の職種



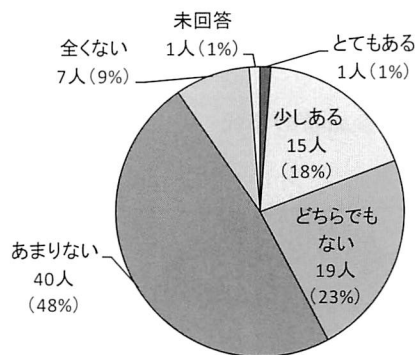
参加者の職歴



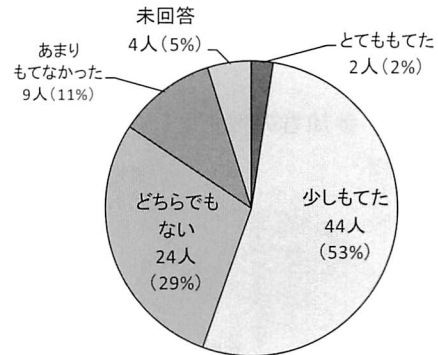
満足度



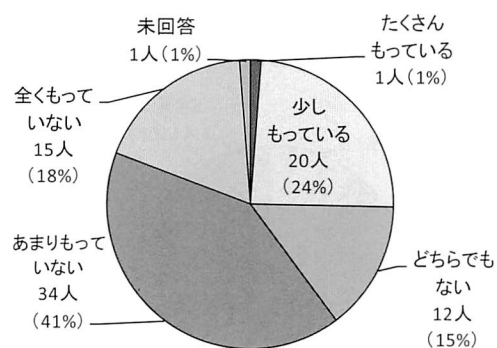
専門職として対応する自信の程度(講義前)



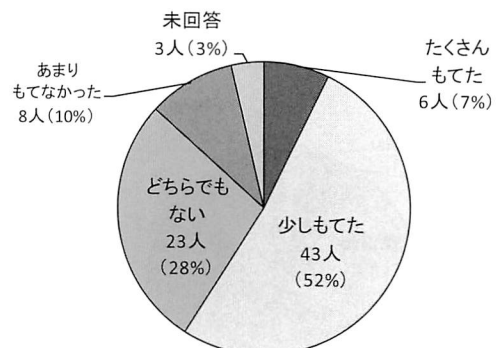
専門職として対応する自信をもてたか(講義後)



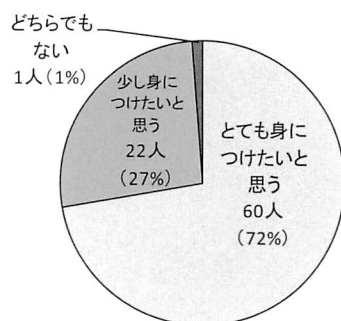
他の専門職に関する知識の程度(講義前)



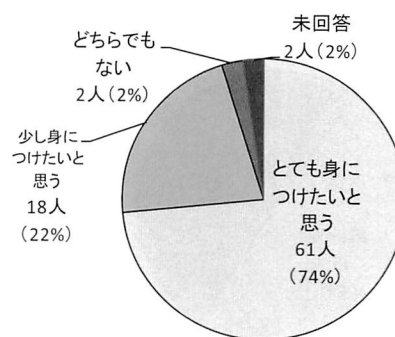
他の専門職についての知識をもてたか(講義後)

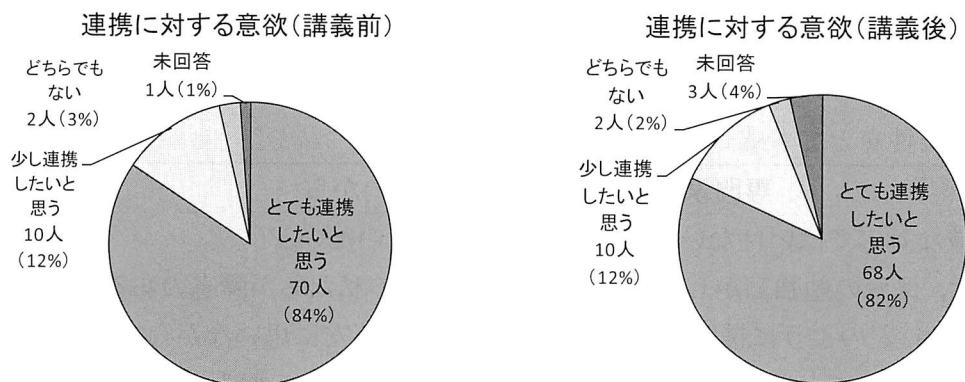


学習に対する意欲(講義前)



学習に対する意欲(講義後)





○参加の動機

自己学習・研修のため
<ul style="list-style-type: none"> 発達障害児について、行動パターンを勉強し、どのように対処していったらよいか、話が聞けたらと思い参加した。 保護者や子どもの支援のために勉強になると思ったから。
実際に支援が必要な子どもとの関わりがあるため
<ul style="list-style-type: none"> 実際、現在担当しているクラスの中に疑わしい子どもがいるため。 保育園での対応が難しい子どもに対して、どのように接したらいいか分からず、参考になればと思って。
案内
興味・関心
その他
<ul style="list-style-type: none"> 講演会に参加できるのは久しぶりなので参加したいと思った。 保護者へのつながりが難しいことをずっと思っていた。

○他機関・他職種と連携をとっていききたいと思う理由

当事者に対する多面的でよりよい支援をめざすため
<ul style="list-style-type: none"> 様々な機関で関わることで、その子の良い面がより引き出されると思う。生涯にわたるサポートだと思うので。 総合的に対応した方が、その子にとってよりよい支援の選択の幅が広がると思うので。
個人・ひとつの場所での対応には限界があるため
<ul style="list-style-type: none"> 保育所だけの対応では限りがあり、その対象の子供の心身の成長の為には専門機関での指導が必要だと思う。 知識もあまりなく、やはり不安なこともあるので、お互いで連携をとり、サポートしていくことはとても必要だと思う。

当事者にとってのよりよい生活・福祉のため
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児が少しでも社会生活に適應できるような支援が必要だと思うから。 ・子どものこれからの長い人生を思うと、多くの人、多くの機関が連携して、支援していく必要性をととても感じるから。
専門家からの助言をもらいたいから
<ul style="list-style-type: none"> ・いい加減な対応ではいけないので・・・教えてもらいたい。 ・保育士は、保育の勉強しかしておらず、そんな立場の私たちが障害のある子に接してよいのか、どのように援助していいのかと、いつも不安に思いながら接している。私のやっていることはあっているのかと。もっと専門の方の協力が欲しい。
支援を必要とする子どもたちが増えてきているため
<ul style="list-style-type: none"> ・今、勤務している園でも、子ども達が発達的に遅れている子が増えていると思うので。 ・保育園にも入園してくる子供が多くなってきたので、関わりあい勉強していきたいと思う。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・発達サポートセンターをきちんと運営していくために。 ・保健師の役割の一つだと思うから。

○他機関・他職種と連携をとっていくために必要だと思うこと

情報の共有化
<ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有し、健診で気になった子、現場で気になる子等、お互いに伝えあうことができたらいいなと思う。 ・同じ職場の間でも他職種の間でも情報の交換は大事なんだと思う。
他機関・他職種との日頃からの交流
<ul style="list-style-type: none"> ・まず、他機関・他職種との関わりを日頃から大切にして、顔がみえる関係になり、何でも相談できるようにしていき、子育て支援を一緒に考えていきたい。 ・こまめに連絡を取り合い、コミュニケーションをくり返していくことだと思われる。
日頃からの研修や個々人の専門性のスキルアップ
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研修会で話し合う時間。自分自身の知識（発達障害について）を増やすこと。コミュニケーション技術を身につけること。 ・同じ研修を受けることで、少し思いを共有できる気がする。
保健師による定期的な巡回相談の再開
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、ひんぱんに保健師さんに来園してもらいたい。 ・巡回相談の再開。年1回になったとき、意味があるのか…と思ったが、今の全くない状態では困る。障害がはっきり見える子だけでなく、気になる…というのはとても多い。園に来ていただいて、集団の様子も見ていただきたい。

他機関・他職種の役割の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・園で他機関・他職種についての資料のようなものがあると勉強しやすい。 ・やはり健診とかを受けているので保健師さんとの連携をもっととりたいと思う。また相談する機関について自分たちも学ぶ必要があると感じた。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を信じ、子どものために連携を面倒がらない。 ・一緒に成長を見守っていこうとする意識

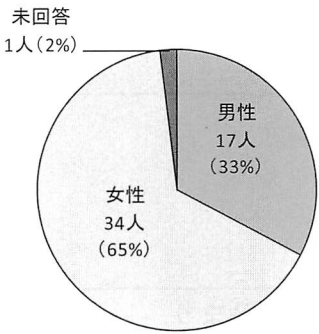
○講演会の感想

支援のあり方に対する気づきや理解の深まり
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修を通して連携の大切さ、フォローの大切さ、信頼関係の重要性を学ぶことができた。 ・自分の普段の保育を振り返りながら、研修会に参加させていただいた。保護者との信頼関係を築いていくことには、非常に時間をかけて進んでいかなければならないこと、色々と考えさせてもらった。
充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・現実的な内容でとても参考になった。 ・事例をあげて1つ1つ、その背景にあるもの（子どもの可能性も養育環境も含めて）を見ることができ、充実した研修だった。
同様の研修の開催希望
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士さんの思いをわかってよかった。共有理解のためにも、今後もこのような研修をしてほしい。 ・保育士さんと合同研修はとても良いと思う。もっと事例など今後研修できたらと思う。
講演内容に対する具体的要望
<ul style="list-style-type: none"> ・事例をあげての意見交換をもっとしたかった。 ・保護者に伝えることの大切さはよくわかったが、もっと時間があるなら、発達障害のような子との具体的な関わり方まで聞きたかった。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・結論がみえないものなので、自分の中でうまく整理できない部分が多い。 ・日々の中で、迷うこと、自分に関わるのが難しいところがあった。でも、親と親子と向き合ってコミュニケーションをとっていくことで、いつか何かにつながっていってくれると信じたい。

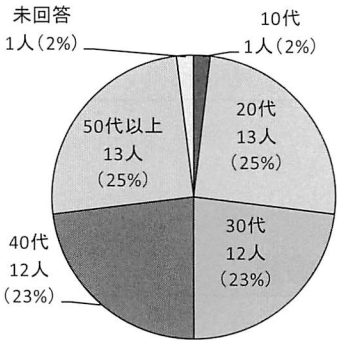
【枕崎市における支援活動について】

(アンケート回収率：81%)

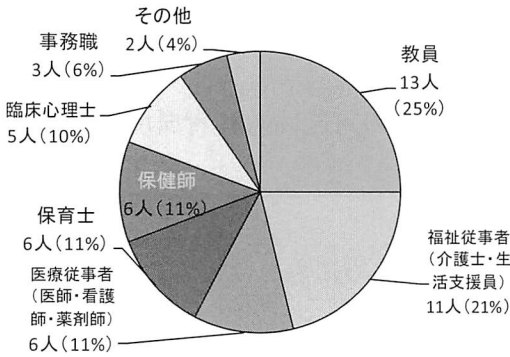
参加者の性別



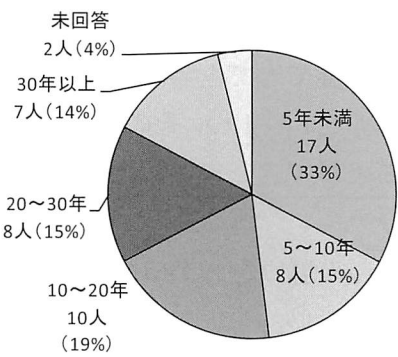
参加者の年代



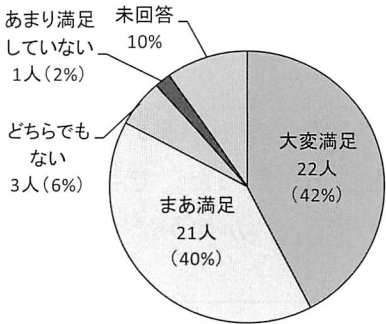
参加者の職種



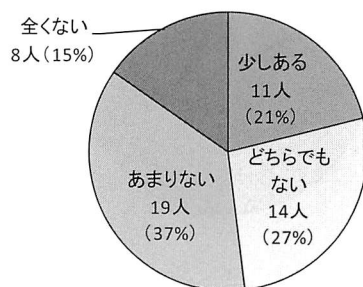
参加者の職歴



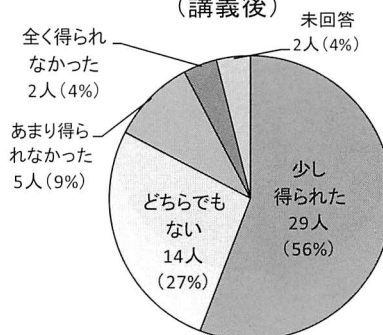
満足度



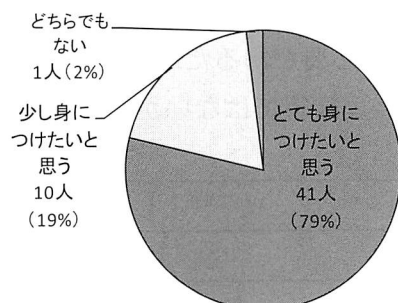
専門職として対応する自信の程度
(講義前)



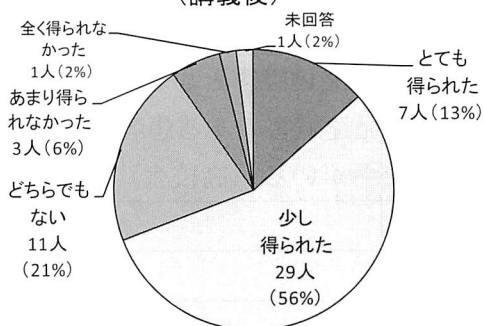
専門職として対応する自信を得られたか
(講義後)



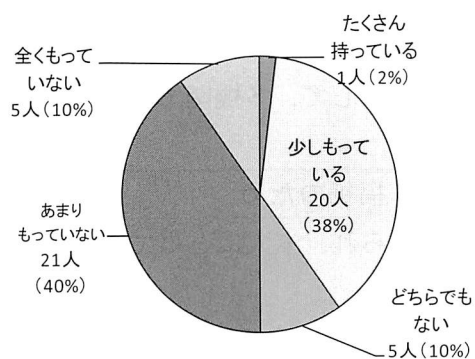
対応に関する知識やスキルの学習への意欲
(講義前)



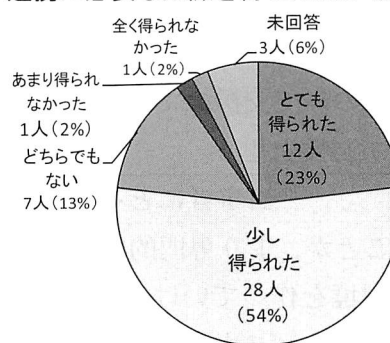
対応についての知識やスキルは得られたか
(講義後)

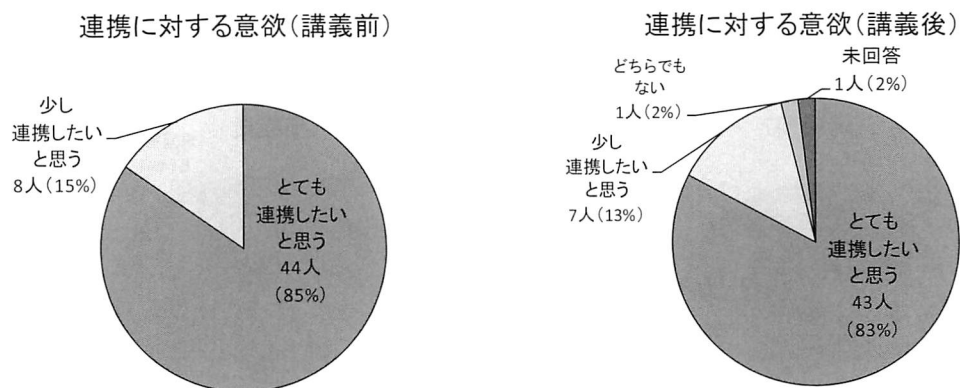


連携に必要な知識の程度(講義前)



連携に必要な知識を得られたか(講義後)





○参加の動機

自己学習・研修のため
<ul style="list-style-type: none"> ・行政で母子保健を担当しており、発達のかたよりが疑われるお子さんとその保護者への支援について考える機会となりそうだったので。 ・自分のうけもつクラスでの気になる子への対応の仕方の中で、どのような支援が良いのか知りたいと思ったから。
実際に発達障害児・者や支援が必要な子どもとの関わりがある（あった）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場で発達障害と思われる生徒が多く、対応する必要があるため。 ・臨床でも発達障害のある患者にかかわり、学校でも発達障害ではないか？と感じる子どもたちがいる（高校生）。
案内
興味・関心

○他機関・他職種と連携をとっていききたいと思う理由

当事者に対する多面的でよりよい支援をめざすため
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな視点からの支援が必要だと思うため。 ・連携をとる事により、発達障害児・者への理解を深め、支援体制を構築できると考える。
個人・ひとつの場所での対応には限界があるため
<ul style="list-style-type: none"> ・個人の判断では、うまく導けない可能性があるから。 ・一つの機関のみで支援はできないので。役割を明確にして、多機関で連携して支援することが必要と思う。
当事者にとってのよりよい生活・福祉のため
<ul style="list-style-type: none"> ・そうすることが、より専門的な立場からの支援が得られ、本人にとっての良い学校での生活環境を作っていけるため。 ・いろいろなサービスを利用することで、本人にとっていい生活ができるため。

<p>専門家からの助言をもらいたいから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な関係機関のご意見を伺いたい。 ・療育が必要な時期（スタート時期）など、発達、心の育ちの過程など、専門的な意見が必要なので連携が必要。
<p>当事者に対して一貫した対応を行うため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人全体で一貫した関わりを持つためには、専門機関との関わりがなければ困難である。 ・各機関・各職種、それぞれの専門の知識をもちより、誰もが同じ対応ができるのがいいと思うから。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、必ず必要な分野となってくると思うので。 ・発達障害は、教育、医療、福祉の複数領域に関わることが多く、多職種・多機関の協力と連携が不可欠と考える。

○他機関・他職種と連携をとっていくために必要だと思うこと

<p>情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの情報共有や支援目標を考えていくことで、より多面的に支援をすることができると思う。 ・情報の共有であると思いますが、発達に応じた連絡ノート（年度に渡る）を、同意のもとに準備して活用していけたらと思う。
<p>他機関・他職種との日頃からの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、関わっている者同士で小規模でもよいから、顔を合わせることが必要と思う。 ・日頃より、研修会を持ち、また地域ごとに行い、顔見知りとなりコミュニケーションを日々とっておく必要があると感じる。
<p>日頃からの研修や個々人の専門性のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携をとるためには、まず機関の存在を知っておく必要があると思うので、このような研修会、そして勉強会をして、つなぎ先を知っておくことが必要と思う。また発達障がいについての知識も必要と思う。 ・他機関、他職種と連携をとっていくことは、とても大切なことだと思うが、研修会を通して、必要性をとて感じたので、研修の場を多く持つこと、もっと多くの人に知ってもらう、理解してもらうことが、まず必要なのでは、と思った。
<p>他機関・他職種の役割の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関・他職種との専門分野のみでなく、広く他職種の事を、深くとは当然無理なことだが、少しは浅くてもいいので周知することが連携しやすい環境に繋がると思う。 ・患者や家族を支援する為に各の立場、役割を理解することの重要性、発達障害児・者の支援は難しいことを再認識し、協力・支援する事が必要であると思う。

その他
<ul style="list-style-type: none"> ・学校側からも連携をとってもらえるよう，病院からも積極的に啓発を行っていく必要がある。 ・ある例を通して，連携をとる時に，誰かそのケースのキーパーソンとなる人が必要と思う。

○講演会の感想

支援のあり方に対する気づきや理解の深まり
<ul style="list-style-type: none"> ・一人の生徒に対して多くの方々の支援があり，協力があり素晴らしいことだと感じた。また，本人に対して，生きていく手立てを具体的に示していくこと，本人の意志（人格）も確認しつつ行っていくことの大切さを感じた。 ・障がい児・者は，みんな同じとは言えないので，どういう状態のときにどのような対応をしたらよいか考えさせられた。本人の支援も大切だが，一番は本人の気持ちが大切なんだと感じた。
充実感・満足感
講演内容に対する具体的要望
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルストーリーズ，脳生理の話も詳しく聞きたかった。 ・時間不足だった。普通の学校ですごしているレベルの発達障害についても，もっと詳しく知りたかった。
同様の研修の開催希望
<ul style="list-style-type: none"> ・患者，家庭，教育現場を支援できる病院となるよう，このような研修を続けられたらと考える。 ・自分の知識として深められた。もっと研修を受けたいと思った。

○臨床心理士に対するニーズ

研修会や勉強会の開催
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修のサポート，アドバイス。 ・今日のような事例を交えた参加型の研修会もできたらと考える。臨床心理士による講演なども開催できたら。
事例に対するアドバイス・スーパーバイズ
<ul style="list-style-type: none"> ・気軽にアドバイスもらえると嬉しい。 ・困難ケースへのスーパーバイズ。今回のような，事例検討の場は重要と感じる。
地域に対する情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ・社会の人達に，もっと職種のアピールをしてもらい，日常的な支援に。 ・当事者，家族への対応の背景にある，地域社会の変化を働きかける必要がある。専門の方々のとらえられる社会の問題に対する発信も期待している。

大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート

「臨床心理学的地域支援」に関するアンケート①

次年度、現場体験を含めた地域支援に関する実践演習科目(選択科目)の設置を予定しています。より実践的なカリキュラムづくりのため、アンケートを実施いたします。アンケート結果は公表に当たって、個人が特定されないよう配慮いたします。また、回答することによって不利益を被ることはありません。よろしく御協力ください。回答欄が足りない場合には裏面を御使用ください。

○ 記入日 平成23年 月 日

○ 氏 名 ()

○ 学 年 1年 ・ 2年

1. 相談室のように来談形式の支援と比較して、セラピストが実際に地域に出向いて行う「臨床心理学的地域支援」を、どのような活動だとイメージしますか。自由に記述してください。

2. 現在、「臨床心理学的地域支援」に興味・関心はどの程度ありますか。

かなりある ・ 少しある ・ どちらでもない ・ あまりない ・ 全くない

3. 2. の回答について、そう思う理由を記述してください。

4. 将来、「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思いますか。

とてもそう思う・少しそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・全くそう思わない

5. 4. の回答について、そう思う理由を記述してください。

6. 臨床心理士として「臨床心理学的地域支援」を行う際、どのような知識やスキルが必要だと思いますか。自由に記述してください。

[]

7. 6. の知識やスキルは、現在のカリキュラムの中で、習得できると思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

8. 6. の回答について、そう思う理由を記述してください。

[]

9. 6. の知識やスキルを、さらに習得するためには、どのような授業や実習が必要だと思いますか。

[]

10. 実際に地域に出向くような「臨床心理学的地域支援」に関する演習科目が開講されたら、受講したいと思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

11. 10. の回答について、そう思う理由を記述してください。

[]

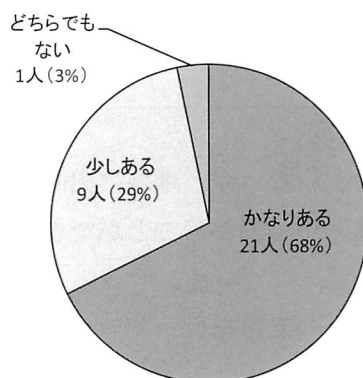
質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート結果

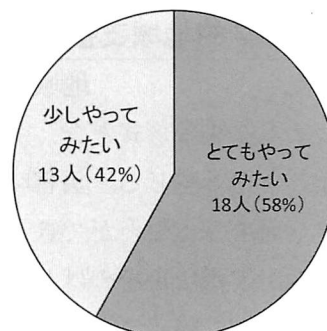
○「臨床心理学的地域支援」のイメージ

地域に実際に出向いていく援助
<ul style="list-style-type: none"> ・相談室のように来談形式だと、ある程度、活動性がなければならず、地域に出向くことも必要なことだと感じる。災害時のように、実際に生活の中で関わることができ、相談室とは違う面をみることができる活動だというイメージ。 ・臨床心理士が実際に足をのばし、地域の様々な機関や人々の支援を行っていく活動。地域全体を支援していくこと。
コミュニティへの積極的な関与
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的で、予防や地域支援のシステムづくりなどに関与するイメージ。 ・来談の場合は対個人であつたり多くても家族や関係者数人のイメージがあるが、地域支援となると一般の人も含めたもっと広い範囲のコミュニティと関わる印象。
予防的観点に立った援助
<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱えたクライアントが来談する相談室とは異なり、より地域衛生的予防の視点に重点を置いた活動。 ・心理士はコミュニティ感覚を持ち、その場で関わりを持つ専門家や非専門家の方々とコラボレーションしながら予防的なアプローチを優先させて、黒子のように影から全体的サポートを行う。その際、対象者を社会的文脈でとらえ、病理性よりも健康性に焦点を当てる。
地域の臨床心理学的ニーズを自ら見つけていく視点の必要性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で埋もれている問題やニーズを見つけ、地域の持っている力を活性化していくお手伝いをする活動であり、開かれた臨床心理活動だとイメージする。 ・保健センター、病院、学校、その他いろいろなコミュニティで講演を行ったり、また地域で行われている様々な活動に参加していく中でニーズを見つけて対応していく…といったようなイメージ。
他職種との連携の必要性
<ul style="list-style-type: none"> ・相談室での支援と比べて、一層のグループでの連携が求められ、役割分担と、それを統括するリーダーの存在が必要。 ・じっくり深く向き合っていくというよりも、いろんな方と協力しながら横につながって広がりながら、クライアントさんを支援していくようなイメージ。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・集団療法など地域の子どもや人への支援を行うこと。 ・被災地支援等（災害を被った人々の心のケア）、遠隔地における母子支援（発達相談など）、精神保健福祉活動と似たイメージ。

「臨床心理学的地域支援」への興味・関心



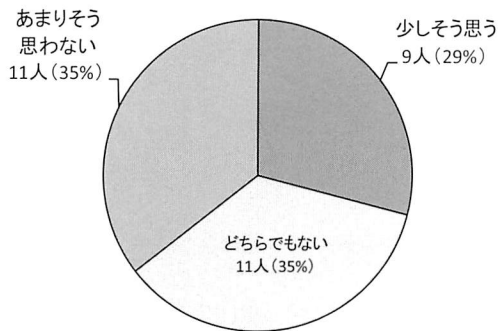
将来「臨床心理学的地域支援」をやってみたいか



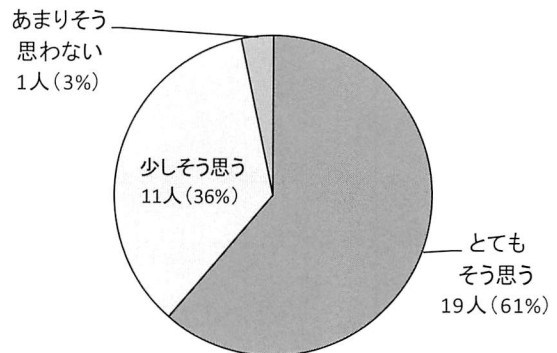
○「臨床心理学的地域支援」を行う際に必要だと思う知識やスキルについて

<p>集団に対して働きかける力やコミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に合わせて、それぞれの集団性を崩すことなく、中に入っていくスキル。個人でなく、集団に働きかける力。 ・地域の中に入っていく力だと考えられる。地域支援では、地域に受け入れられないことには何もできないと考えられ、どのようにして、地域のつながりを作っていくのかということが、カギになると考えられる。
<p>地域を見立てる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境全体を見立てる力やその集団の力動がどんな風に動いているのかを見立てる力。その上で個人を見立て必要な援助を考えるための知識やスキルが求められると思う。 ・何よりもアセスメント能力だと思う。個をみる目、集団をみる目、コミュニティを見る目、多くのコミュニティがどのように影響し合っているのか等のアセスメントができることが必要だと思う。
<p>臨床心理学的およびその他の幅広い知見をもつこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学の視座からどのように地域支援を行っていくかについて、コミュニティ心理学、集団心理学の知見をはじめ、高度な心理臨床スキル。 ・どのような活動を行うかによっても異なるかと思うが、発達や医学的な知識など臨床心理学だけに偏らない広い知識や積極的に地域に入っていく社会性や自主性なども必要だと思う。
<p>地域文化や特色の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“地域”への支援なので、その土地のもつ特性、人々の特性や歴史、社会事情、方言など、その地域に関する多くの知識が必要だと思う。 ・地域についての文化や歴史的背景を知り、それぞれの地域に合った介入をする必要がある。

知識やスキルを現在のカリキュラムの中で
習得できると思うか



授業が開講されたら受講したいか



○知識やスキルを習得するために必要だと思う授業や実習の内容について

<p>地域に直接出向いた形式での実習・授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に地域に出向いて、その土地で何が問題になっているのかを知り、それに対して心理士に何が出来るかを考えられる授業や実習が必要。 ・机上で得られる知識だけでなく、実際に現場を見たり、かかわってみるような経験ができれば良いと思う。
<p>集団を扱うような実習・授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に集団やグループを使ったり、対個人だけでなく、対集団の支援に関する授業や実習。 ・実際に集団に働きかけたり、集団を動かしたり、集団の前に立つ実習のようなものが必要なのだろうと思う。
<p>学生自身が主体的に動く形式の授業・実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自身がグループを組んで、マネジメントを行う経験をしたり、プレゼンテーションを行って、多職種に分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を養うような授業があれば良いと思う。 ・ある程度、学生の自主性が発揮できるようなところ。現在の実習先では、どうしても“見学”的な要素が強いと思います。学校領域などを除いて。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に入っていくための心得と、その中での臨床家としてのあり方を学ぶ授業が必要だと思う。 ・“地域研究”のような、地域が変われば、あらゆる事情が異なるという、“異文化”について知ることができる授業。